

夢に向かって、 最初の一步ここから。



あやか
地域おこし協力隊 桐野 恵佳さん

写真：お気に入りの場所、サンセットロード ボードウォークにて
地域おこし協力隊の先陣達と（左から2番目が桐野さん）

弾ける笑顔が魅力的な桐野さん。長島町出身で、熊本の専門学校を卒業後、阿久根市にJターンして社会人最初のキャリアを地域おこし協力隊としてスタートしました。市内の企業を取材し、社風や働く人の様子、求人情報などをわかりやすく楽しい記事にまとめて発信するのが主な仕事。「難しいけれど、いろんな人に会うことができ日々勉強」と、うきうきとした表情で話していただきました。

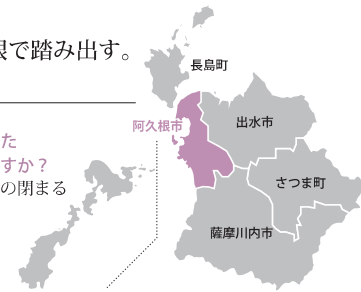
専門学校ではウェディングの勉強をし、「ガーデンウェディングをプロデュースするのが夢」という桐野さん。「阿久根は自然や食材が豊か。好きな土地で理想のウェディングを実現するお手伝いがしたい」と目を輝かせます。

阿久根市

Jターン

J-turn

最初のキャリア。阿久根で踏み出す。



移住のきっかけ、決め手はなんですか？

中学まで長島町で育ち、阿久根市の鶴翔高校に進学しました。

阿久根の魚を鎌倉で販売するプロジェクトに参加し、その発起人で当時地域おこし協力隊だった石川秀和さん（株式会社まちの灯台 阿久根代表）と知り合いました。

魚の種類や調理法を阿久根の方に教わり、鎌倉でそれを伝えながら販売する体験は、楽しく達成感がありました。

ウェディングの専門学校を卒業しましたが、新型コロナウイルス禍で式場関係への就職が難しく、どうしようかと思っていたところ石川さんが協力隊をしないかと声をかけてくださったんです。高校の時から「石川さんの近くで働くのって面白そう」と思っていましたし、私がやりたいガーデンウェディングにも挑戦できるかもしれないと思い、移住して協力隊になりました。



移住後に困ったことはなんですか？

夜、飲食店の閉まる時間が早いので、夜の外食を楽しめるお店がもっとあればと思います。歩いて行ける距離にあまりお店がなく、一番近いコンビニでも徒歩10分以上かかるのはちょっと不便だなと感じています。一方、人が温かくて積極的に話しかけてくれたり、自然とサポートしてくれたりするので、移住者に優しい土地だと思いますよ！

これから阿久根市でやっていきたいことは？

阿久根でガーデンウェディングをプロデュースするのが夢です。2022年9月には阿久根で撮影された映画「海辺の金魚」の監督小川紗良さんの結婚祝いの食事会を阿久根市内のカフェでプロデュースさせていただきました。テーブルにボンタンを並べたり、流木をオブジェにしたり、阿久根の農家さんや漁師さんから仕入れた食材をふんだんに使ったりと阿久根づくしの演出をして、感動していただけたのがうれしかったです。市内には式場が一つありますが、市外で挙式する人も多いので、阿久根で理想のウェディングを実現するお手伝いができるようになればうれしいです。

阿久根市でどんなお仕事をしていますか？

2022年4月から阿久根市企画調整課所属の地域おこし協力隊として、阿久根市内の企業を取材し、求人情報を発信しています。阿久根にはハローワークがないので、企業情報や求人情報の発信は重要です。文章を書くのは難しいですが、「見たよ」と声かけてもらえるので手応えを感じています。協力隊の仲間はとても愉快で、なんでも相談できて楽しく仕事できています。



阿久根市のどんなところが好きですか？



海がきれいで自然の遊びがたくさんあります。流木を集めて装飾にしたり、仕事終わりに友人と海でBBQをしたりして楽しんでいます。家と職場は歩いて10分くらいの距離なので、通いやすく、出勤する間に地域の方に会ってお話できるのが楽しいです。

阿久根大島を背景に笑顔の桐野



株式会社まちの灯台阿久根/代表からのコメント 石川秀和さん

桐野さんの強みはなんとと言っても、誰でも心を開かせる明るさと笑顔です。専門学校卒業後、いきなり協力隊として阿久根に飛び込んでくれました。



社会人経験がなく、苦労も多いと思いますが、取材に行って文章を書き、努力と経験を積んでスキルアップしていると感じます。協力隊退任後のキャリアにつながるよう、サポートしていきたいと思っています。

DATAで 鹿児島と東京の 暮らしを比較

全国的に見ると、通勤・通学時間が長い都道府県の上位は神奈川（100分）、千葉（95分）、東京（95分）、埼玉（94分）となっており、地方よりも都市部のほうが通勤・通学時間は長くなる傾向があります。鹿児島は通勤・通学時間が短く、移動時のストレスが少ないと言えます。

通勤・通学の平均時間

鹿児島



東京

61分

95分

出典：令和3年社会生活基本調査

生ゴミを宝に変える大切な仕事。

やりがいを感じて故郷で発見。



会社員 松崎 翼さん

「帰って来て良かったです!」。満面の笑みと真っ直ぐな瞳でそう語ってくれたのは、2018年に阿久根市へUターンした松崎さん。大阪の大学への進学、福岡での就職と都会暮らしを経験。現在は、阿久根市のモデル事業である、生ゴミを堆肥化する仕事に就いています。趣味はジャグリング、中国コマ、バルーンアートなどの大道芸。鹿児島市内の社会人サークルに通っています。特に、卒園した幼稚園でパフォーマンスをしたことは心に残っているそう。故郷で、仕事、プライベート共に充実させる松崎さんは生き活きた様子で語ってくれました。

阿久根市

Uターン
U-turn

都会の生活に疲れてUターン。
阿久根で仕事も趣味も充実。



阿久根市

移住のきっかけ、決め手はなんですか？

高校までは阿久根で過ごし、大阪の大学への進学を機に地元を出ました。卒業後、福岡で営業や運送業の仕事に就き、中心部の賑やかなところに住んでいました。でも、元々人ごみが得意ではない私にとっては、都会暮らしは肌に合いませんでした。知り合いもいない土地で、一人で働きに出て、誰もいない家に帰る…という日々にも心身ともに疲れ果てていました。その時、ふと「地元だったら落ち着けるだろうなあ」と思ったんです。そして、そんな私を見計らった親の「帰ってくれば？」という言葉にも背中を押され、Uターンを決めました。



阿久根市のどんなところが好きですか？

好きなところは自然が豊かなところですかね。家の周りも緑が多くて、時間がゆっくり流れている感じが、都会の生活に疲れ切った私にとっては何よりの癒しになりました。ご近所付き合いも濃過ぎないので、ちょうど良いです。また、阿久根大島は鹿が沢山いたり、キャンプもできたりするので、夏のレジャーにはもってこいですよ。



阿久根大島

阿久根市でどんなお仕事をしていますか？

現在は、北薩環境管理協同組合に勤務し、阿久根市民から生ゴミを集め、堆肥を作る仕事をしています。阿久根に帰って来て、仕事を探しているとき、母がたまたま、私の幼稚園からの友人にスーパーで再会し、友人が今の仕事を紹介してくれたんです。初めは、ゴミを扱う仕事で体力も必要なため、「できるかな」という不安がありました。でも、仕事を続けるうちに、不要な存在として終わるゴミが、自分達の仕事によって有用な堆肥に変身するのを目の当たりにし、この仕事を誇りに思うようになりました。福利厚生面では帰宅時刻が福岡にいた時より早くなって健康的な生活が送れています。



一般企業や家庭から出る生ゴミを回収して野菜を育てる肥料を製造。



郷味のジャグリングで地域イベントに参加

これから移住を考える人へのアドバイスは？

落ち着いた空気感で、住みやすいところだと思うので、特に身構えることなく気軽に来てほしいです。ただ、やっぱり車は必須になると思います。阿久根には、ハーローワークがないので、移住して仕事を探すとすると、

出水まで行かないといけないんです。

コンビニも、24時間営業の大型スーパーもあるし、インターネットで買い物もできるので、物質的な不便は特に感じていません。



これから阿久根市でやっていきたいことは？

生ゴミを堆肥にして地域内で資源を循環させる仕事はとてもやりがいがあります。多くの人にこの仕事について知ってもらい、環境配慮などの意識を持ってもらい、この仕組みを存分に活用してもらいたいです。プライベートでは、阿久根で結婚して幸せな家庭を築いていけたらと考えています。



幼なじみ（職場の同僚）からのコメント/鈴木圭佑さん

小さい頃から繊細な性格を知っていたので、現在の仕事に誘った時は「結構きつい仕事なので続かなか」と心配しましたが、根気強く続けてくれています。職場でジャグリングを見せてもらい、すごいなあと驚きました。阿久根でいるんなりに学びながら、じっくりと地域に溶け込んでほしいです。



DATAで鹿児島と東京の暮らしを比較

鹿児島の帰宅時刻は東京と比較して、1時間以上も早いです。鹿児島では帰宅時刻が早いいため、趣味の時間や家族との時間を大切にすることができます。

出典：令和3年社会生活基本調査

帰宅の平均時刻

鹿児島



東京



17時56分 19時15分